

函館工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	人間と文明 I	
科目基礎情報							
科目番号	0114			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	生産システム工学科			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材	授業内でプリントを配布するほか、適宜紹介する。						
担当教員	牧之内 友						
到達目標							
1. 歴史上の人物について、地図や年表を用いてそれぞれの特徴を説明できる。 2. 諸国の文化について、地図や年表を用いてそれぞれの特徴を説明できる。 3. 国際関係について、地図や年表を用いてそれぞれの特徴を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	世界史の重要な用語に関して、高度な専門用語を理解し、年表・地図を用いて特徴を明快に説明することができる。			世界史の重要な用語を理解し、年表・地図を用いて特徴を大まかに説明することができる。		居眠りや内職、携帯電話を見るなど授業に集中しないまたは提出物を期日までに提出しない	
評価項目2	文化圏の成り立ちに関して、高度な専門用語を理解し、年表・地図を用いて特徴を明快に説明することができる。			文化圏の成り立ちに関して、基礎的な用語を理解し、文化圏の成り立ちに関して、基礎的な用語を理解し、年表・地図を用いて特徴を大まかに説明することができる。		居眠りや内職、携帯電話を見るなど授業に集中しないまたは提出物を期日までに提出しない。	
評価項目3	国際関係や国際協力問題に関して、高度な専門用語を理解し、年表・地図を用いて特徴を明快に説明することができる。			国際関係や国際協力問題の基礎的な用語を理解し、年表・地図を用いて特徴を大まかに説明することができる。		居眠りや内職、携帯電話を見るなど授業に集中しないまたは提出物を期日までに提出しない。	
学科の到達目標項目との関係							
函館高専教育目標 D							
教育方法等							
概要	歴史的な観点から人間、社会、文化について多面的に理解し、現代にいたる人類史の流れを把握するとともに、国際社会の一員として社会的諸問題の解決に向けて主体的に貢献する自覚と素養を養う。 なお授業内容は公知の情報にみに限定されている。						
授業の進め方・方法	主に教員が作成したプリントに基づいて授業を進める。2年で学習した世界史の知識を基礎として、より広い観点から歴史を概観して、私たちが暮らしている現代の世界の成立への歩みを踏まえるとともに、これからの世界がどのようなべきか、またそれに私たちがどのように関わっていくべきかを考察する知識と素養を得ることを目標とする。						
注意点	◎授業プリント等の忘れ物、授業中の居眠り、携帯電話の使用等は減点の対象となるので、十分に注意すること。 ◎写しと判断したレポート等の提出物は誰がオリジナルであろうともすべて0点とするので十分に注意すること。 ◎学習・教育到達目標の評価：試験(D-1)(70%)、確認課題(D-1)(30%) ※本科目は学修単位（1単位）の授業であるため、履修時間は授業時間15時間と授業時間以外の学修（予習・復習、課題・テスト等のための学修）を併せて45時間である。自学自習の成果は、課題によって評価する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週	近代ヨーロッパの成立と世界への拡大		大航海時代を経て、世界の一体化へと向かう流れを理解し、一方でルネサンスと宗教改革の意義について理解できる。		
		10週	ヨーロッパにおける国家体制の成立		絶対王政を経ての主権国家体制の成立について理解できる。		
		11週	産業革命と社会の変容		産業革命勃興の背景とその影響の広がりについて理解できる。		
		12週	市民革命と国民国家の成立		イギリス革命・アメリカ独立革命・フランス革命・ナポレオン戦争を経ての国民国家成立について理解できる。		
		13週	ナショナリズムの形成		ヨーロッパにおけるナショナリズム形成とその広がりについて理解できる。		
		14週	アジア・アフリカ諸地域の変容		ヨーロッパ諸国の進出によるアジア・アフリカ地域の植民地化とその影響について理解できる。		
		15週	前期期末試験				
		16週	答案返却				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	確認課題					合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	10	0	0	0	0	20